

佐賀市文化財調査報告書第21集

上和泉遺跡

— D・E地区 —

昭和63年3月

佐賀市教育委員会

序 文

農業基盤整備事業に伴う発掘調査は、この久保泉地区では昭和60年度から実施しており、いままで考古学的に空白の部分が多かった平野部の資料が少しずつ増加しています。

上和泉遺跡（D・E地区）では平安時代の土壇、溝を検出しました。

特筆すべきものとしてD地区で検出した溝があります。そこには土師器坏が数十個連ねてあり、溝中祭祀の一つの在り方として好資料となるものと考えます。

なお、調査に関して御指導・御協力を賜りました佐賀県教育委員会、佐賀県農林部ならびに地元の関係各位に対しまして深く感謝申し上げます。

おわりに、本書が埋蔵文化財に対する認識と、歴史の解明に少しでも資するものであるならば幸甚です。

昭和63年3月31日

佐賀市教育委員会

教育長 山 田 清 人

目 次

I 序 説	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の組織	1
II 位置と環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	1
III 調査の概要	3
1. D地区	3
S K012土壌.....	3
2. E地区	5
(1) S D005溝.....	5
(2) S K013土壌.....	5
3. まとめ	7
4. 出土品一覧表	9

図 版 目 次

図版 1	D・E地区全景
	D地区全景
	E地区全景
図版 2	S K012土壌
	S D005溝
	S K013土壌

例 言

1. 本書は佐賀市教育委員会が国庫補助を受けて、昭和62年度に実施した上和泉遺跡（D・E地区）の発掘調査報告書である。
2. 遺構の実測・写真撮影、原稿執筆は福田義彦が行った。
3. 出土遺物の復元、実測、図面のトレースは調査員の指導のもとに佐賀市教育委員会循誘収蔵庫で行った。担当は以下のとおりである。

遺物復元 鬼崎玲子、浜田糸子

遺物実測 香田哲子

4. 出土品は佐賀市高木町15番30号、佐賀市教育委員会循誘収蔵庫に保管している。

凡 例

1. 遺構についてはほぼ検出順に通し番号を付し、その前にSK（土壌）、SD（溝）の分類記号を付した。
2. 遺構の法量はm単位、遺物の法量はcm単位を原則として用いた。
3. 遺構実測図および本文中の北方位はすべて座標北である。
4. 遺物実測図の中心線が一点破線となっているのは反転復元を表わす。
5. この遺跡の略号はKIZであり、D地区であるならば、KIZ-Dと表記する。

I 序 説

1. 調査に至る経過

昭和60年度から実施されている久保泉東部地区圃場整備事業は、昭和62年度で3年目をむかえ、工事面積も少しずつ増加していく傾向にある。この工事に先立ち、昭和61年度秋に当該地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。その結果1,000平方メートルの広がりをもつ遺跡が確認された。この調査結果を基礎に、佐賀県農林部、県教委、佐賀市土地改良課、佐賀市教育委員会の四者で埋蔵文化財保護に関する協議を実施した。協議の結果、遺跡の検出された地点は水路予定地及び地下げ予定地であるから、発掘調査を実施し、記録保存とすることになった。

調査は水田部分をD地区、畑地部分をE地区とし、現場作業は昭和62年9月2日から着手し、昭和62年9月10日をもって終了した。発掘調査後の出土遺物整理は循誘収蔵庫で実施した。

2. 調査の組織

調査主体 佐賀市教育委員会

事務局 佐賀市教育委員会社会教育課

参事兼課長 山口喜代治

課長補佐 江川光男

文化係長 中野和彦

事務吏員 本告敬資（昭和62年7月まで）

甲木亮一（同年8月から）

福田義彦（調査担当）

発掘作業員 村川キクエ、生田美代子、広瀬幸子、橋本絹子、原ミチエ、宮地峯子、富永ツヤ子、角田千代乃、三好芳子

調査協力 佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、佐賀市土地改良課、久保泉地区土地改良区、山豊建設株式会社、新九州測量株式会社

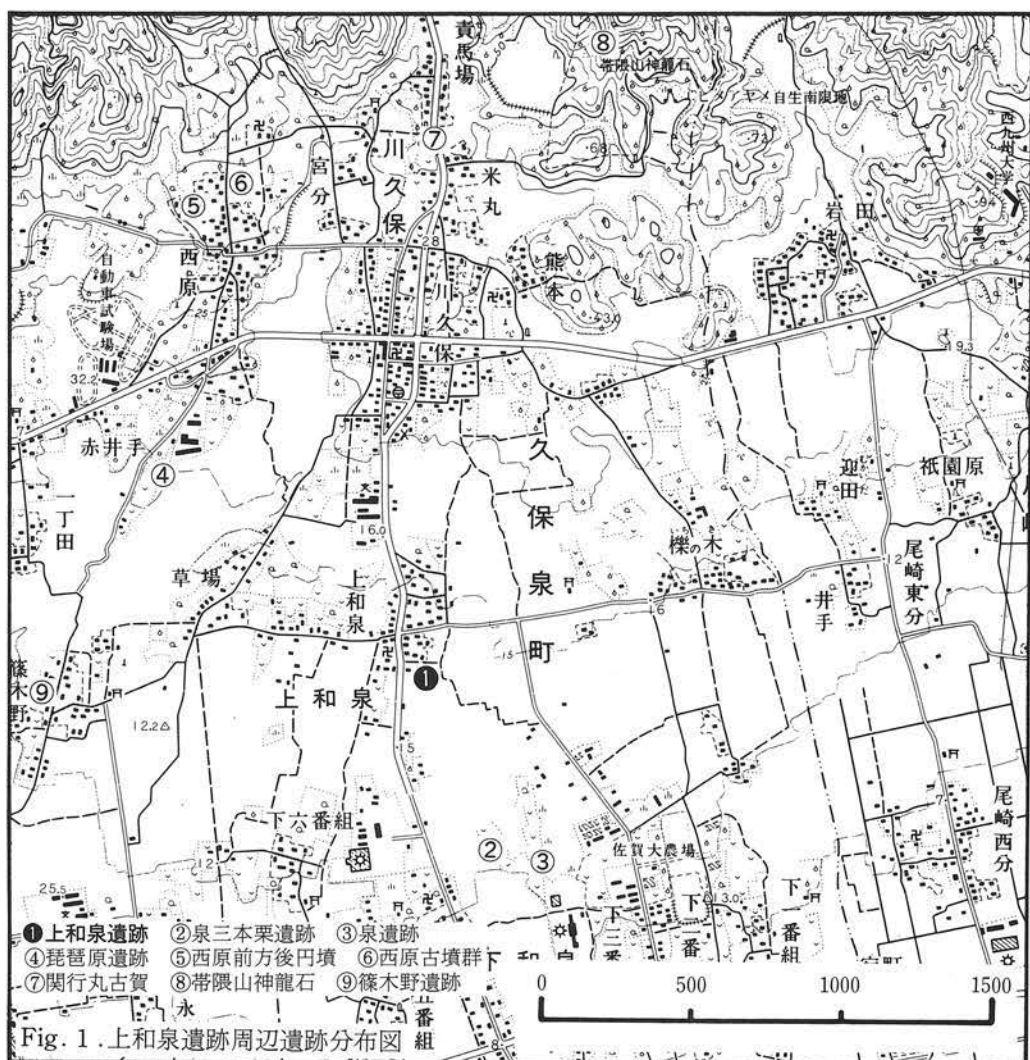
II 位置と環境

1. 地理的環境

上和泉遺跡は佐賀市久保泉町大字上和泉字泉に所在する。佐賀市域の北東部で上和泉地区の東側は神埼町と接している。周辺はその大半が田であるが、市域南部に見られるクリークはほとんどなく、灌漑は急流小河川によるものである。このような田が広がっている中で、比高差約1メートルの低丘陵が点在する。遺跡はこのような低丘陵及びその周辺により多く存在する。

2. 歴史的環境

久保泉地区は脊振山南麓とそこから広がる平野部のほとんどが埋蔵文化財包蔵地^{註1}とされている。表面採集できる遺物は縄文期～江戸期に至るまでのものがあるが、実際の調査例は少ない。



圃場整備関係の調査では、昭和60年度調査の泉遺跡、昭和61年度調査の泉三本栗遺跡の2例があり、本年度で3例目の調査となる。その内容としては、弥生・古墳時代の集落・中近世の生活跡となっている。

久保泉町の調査は主として、脊振山系の南麓部に集中しており、九州横断自動車道建設に伴うものだけでも、東から鈴熊遺跡、西原遺跡、丸山遺跡、藤付遺跡などがある。

その他のものとしては関行丸古墳、帯隈山神籠石の調査例がある。このような遺跡はその立地条件から、出土遺構の多くが墳墓であり、それを造営するための生活基盤が南部の平地に予想されていた。

前述のとおり、わずかではあるが、山麓部に墳墓が造られた時期と同じ時期の集落が検出されており、今後の調査の増加によりその関連性を解明できるものとする。

- 註1 佐賀県教育委員会『佐賀県遺跡地図』昭和55年
 註2 福田義彦『泉遺跡』佐賀市文化財調査報告書第17集 昭和61年
 註3 同『泉三本栗遺跡』佐賀市文化財調査報告書第18集 昭和62年
 註4 蒲原宏行他『九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査概報 第4集』昭和56年
 註5 田平徳栄他『西原遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(3) 昭和58年
 註6 東中川忠美他『久保泉丸山遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告書(5) 昭和61年
 註7 松尾吉高他『香田遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(2) 昭和56年
 註8 渡辺正気他『関行丸古墳』佐賀県教育委員会 昭和33年
 註9 木下之治他『帯隈山とその周辺』佐賀市文化財調査報告書 昭和42年

III 調査の概要

調査対象地区は幹線用排水路Ⅲ-3号予定地(D地区)地区と支線道路B-Ⅲ-2号予定地(E地区)の合計1,000平方メートルである。出土遺構は土壌・溝・小穴などがある。遺物は主として平安時代の土師器・甕・皿などであったが、D地区の遺物包含層からは弥生時代～鎌倉時代におよぶ土器細片を検出した。

1. D地区

昭和62年度圃場整備工区の南西部にあって標高は約12mを測る。水田

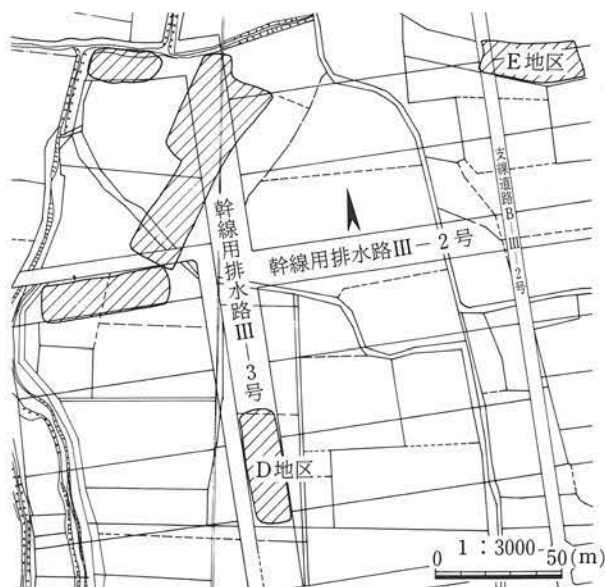


Fig. 2 上和泉遺跡調査地区配置図

の表土下0.3mで土壌・小穴を検出した。他地区にくらべ遺物包含層の占める割合が多く、調査区の3分の2に及ぶ。中央付近に全体の3分の1の割合でトレンチを設定した。地表下0.2～0.5mの間で、細片ではあるが多数の土器片を検出した。包含層の下部は淡黄褐色の粘質土であった。出土土器は摩耗が進んでおり、流れ込みによるものの証左と判断する。

SK012土壌 (Fig. 3)

調査区の北西部に位置する。上面の平面形は円形を基調とするもので径0.9mを測る。東側掘込み下0.25mで半月状の段があり、それと同じレベルで壁面に稜を有する。その稜は約一辺0.6mで一巡する。底面は南北0.5m、東西0.48mを測り、ほぼ平坦になっている。

遺物は掘込み下0.2～0.5mの間で検出し、その出土位置は遺構の南東部に集中している。遺物の種類は土師器・甕(蓋・身)、須恵器・壺(破片のみ)がある。

1～11は土師器・甕。口径12.55～13.7cm、器高2.9～3.6cm、底径7.2～7.8cmを測る。底部がわ

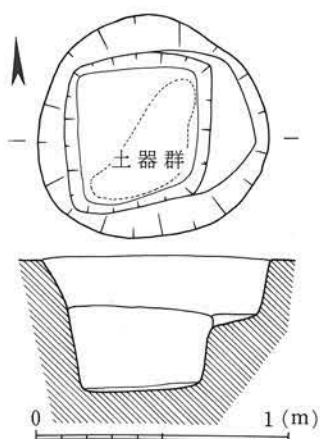


Fig. 3 . S K012土坑実測図
(1/60)

ずかに上げ底で、口縁は直線的に立ち上る。外底はヘラ切りの後、板状圧痕を残す。12は須恵器杯。土師器杯とほぼ同様の形状を呈するが口縁下部の器壁がやや薄い。13は土師器杯。この種のものでは最も法量が大きく口径15.25cm、器高3.1cm、底径9.5cmを測る。14・15は土師器杯。口径が大きく、低い器高をもつ一群である。口径15～16.1cm、器高1.6cm、底径12.1～12.7cmを測る。口縁部は外反する。16～18は土師器杯(蓋)。17も擬宝珠があったものと推定する。径19.2～20.3cm、器高3.6～4.1cmを測る。天井部はほぼ平坦であり、口縁端部は短く下に延びる。19・20は土師器杯。短い高台を有する。口径14.5～15.1cm、器高5.5cm、底径7.65～8.2cm。体部は直線的に立ち上り、口縁部は丸みをもつ。21は須恵器壺。底部のみ残存しており、径10.9cmを測る。0.6cm程度の高台をもつ。

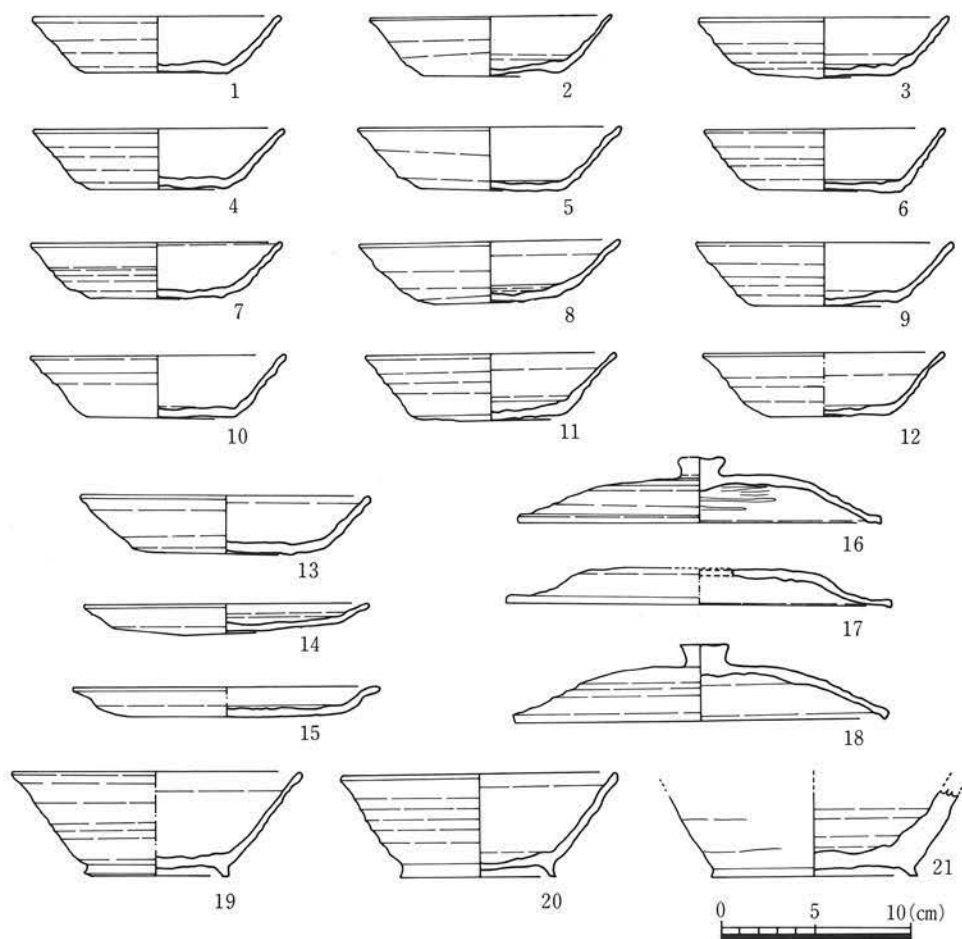


Fig. 4 . S K012土坑出土土器実測図 (S = 1/4)

2. E 地区

D地区の北東170mに位置する。周囲の水田より高い畑地にあってその比高差は1mを測る。標高は遺構検出面で12.5m。出土遺構は溝3条、土壇1基。

(1) S D005溝 (Fig. 9)

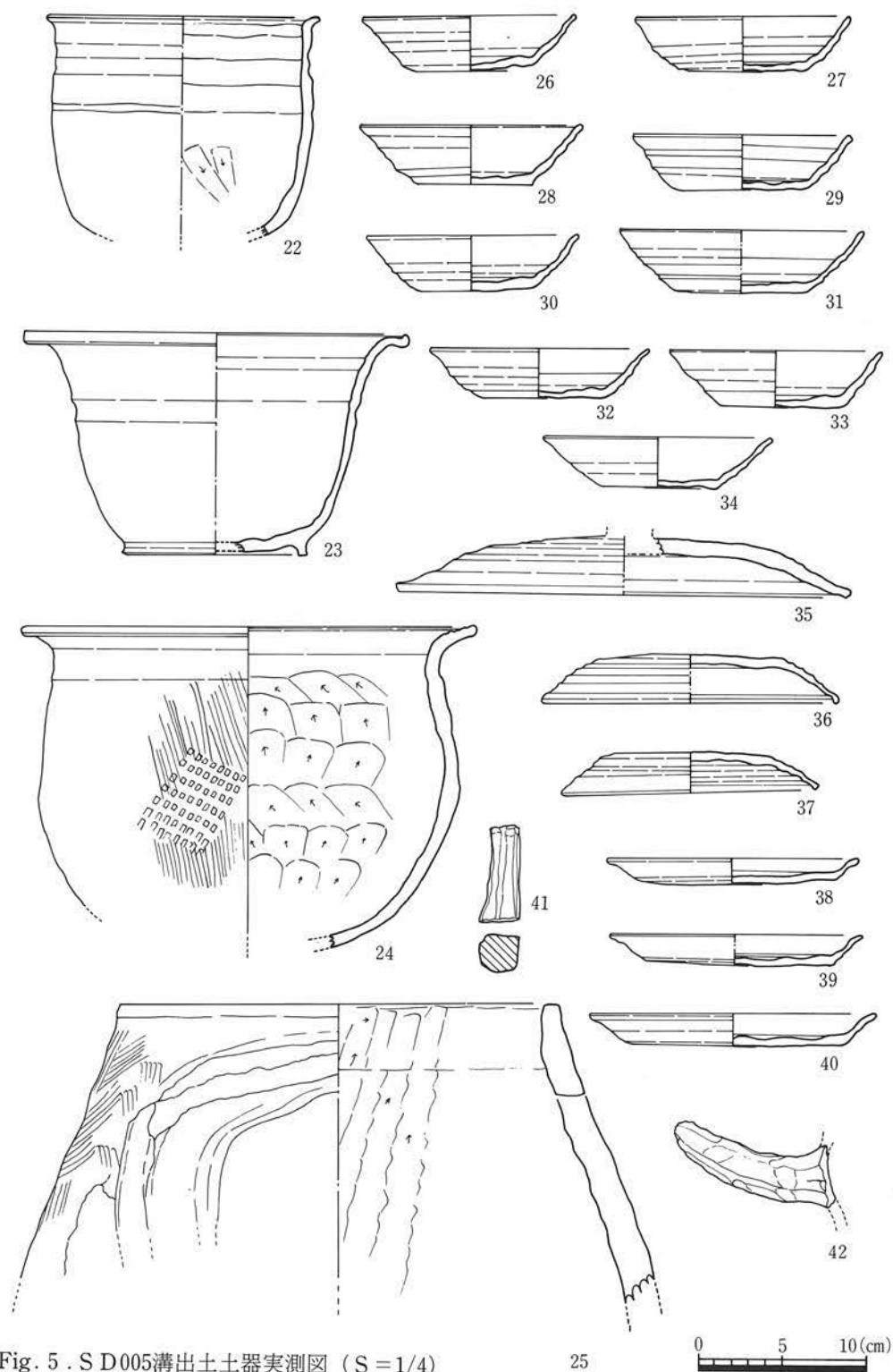
検出全長約15m、深さ0.2~0.5m、幅0.3~1.2mを溝る。断面はU字型を呈し、西方から東方にむけてわずかな高低差がある。中央付近の広がっている部分は土壇状のものと切れあっている。埋土は淡茶褐色を呈し、下部になるに従い黄色味を増し砂粒を含む。

遺物は溝中央部で検出した。大半が土師器坏であり、その出土状況は図版2-5にあるように底部を西に向け、横に置いた状況で約2mの長さに連なっていた。その他のものとして須恵器坏1点、土師質かまど1点、土師器甕(取手のみ)等がある。

22は土師器甕、底部を欠失している。口径16.15cm、残存器高13.0cm。器壁が厚く、体部は直線的に立ち上り、口唇部は短く外反する。内面上半部に輪積み痕を有する。23は土師器鉢。口径22.4cm、器高13.25cm、高台径10.9cmを測る。体部は平坦な底部から内湾気味に立ち上り口縁部に至って外反する。口唇部はつまみ上げて上方に向いている。24は土師器甕。口径26.8cm、残存高19.3cmを測る。体部は内湾し頸部から口縁部にかけて外反する。器面調整は外反の一部に格子状のタタキがあり、それを消すように縦方向のハケ目がある。内面は主としてヘラケズリ。25は土師質のかまど。口径26cm、残存高16.4cmを測る。前面にはU字形の炊き口がある。外面はハケ目、内面は力強いヘラケズリがある。器面の一部にはススが付着している。26~34は土師器坏。すべてヘラ切りのもので、柱状圧痕が認められる。口径12.25~14.2cm、器高3.0~3.8cm、底径6.5~7.8cm。35~37は土師器坏(蓋)35のみ、擬宝珠の痕跡が認められ、口径26.55cm、残存器高3.5cmを測る。36・37は口径15.2・2.9cm、器高2.95・2.9cmを測る。38~40は土師器坏。器高が低いものの一群である。口径14.8~17.8cm、器高1.55~1.9cm、底径11.2~13.1cm。41は土師器で何らかの器の脚部。高さ5.5cmを測り、ヘラで側面の面とりをしている。上端部側面に横方向の沈線があり、器に差入れたものと推定する。42は甕の取手。土師質で長さ10cm。43・44・46~48は土師器坏。口径13.95~14.7cm、器高4.6~5.98cm、底径7.7~8.22cm。内面底部は平坦で、体部は直線的に立ち上る。45は須恵器坏。器形は土師器と大差ない。口径14.3cm、器高5.15cm、底径7.7cm。49は土師器の支脚。下部は平坦になっている。

(2) S K 013土壇

調査区の西端にあって上面の平面形は楕円形を基調とする。長径約4.7m、短径2.2m、深さ0.2mを深る。埋土は淡黄褐色を呈し周囲の地山の色調と識別ができにくかった。遺物はS D005溝出土の土師器と同種のものの細片を数点検出した。



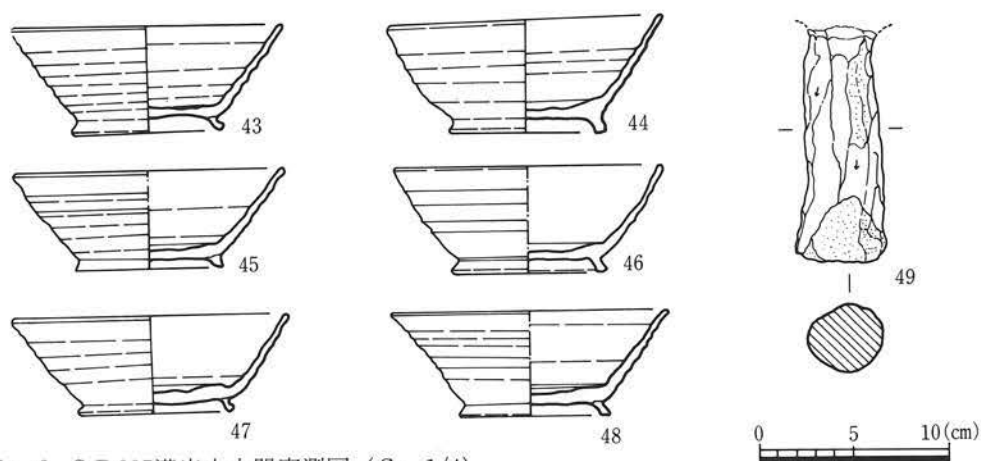


Fig. 6 . S D005溝出土土器実測図 (S=1/4)

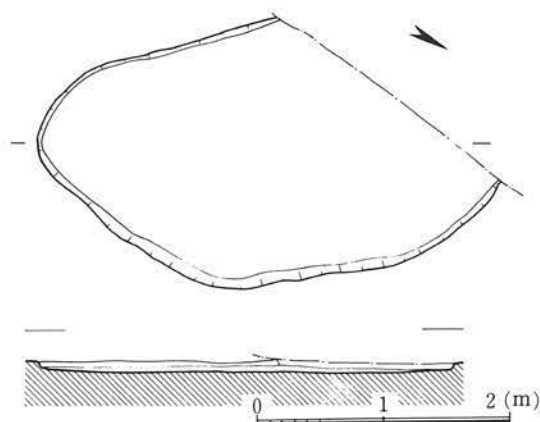


Fig. 7 . S K013土壌実測図

III ま と め

今回調査を行なった上和泉遺跡D・E地区では、土壌2基、溝3条、小穴18個を検出した。時期的には両地区とも平安期のものと考えるが、D・E地区相互の関係は地形的に見て直接的にはむすびつけがたい。というのは別財源の調査で周辺のA・B・C地区を行ったが、少なくともD地区はA・B・C地区の流れの中にあるものとする。

個別の遺構については、D地区S K012土壌は祭祀を行ったものとする。この遺構は深さが0.6mと浅いので井戸とは呼称しがたいので土壌という名を使用した。現在でも底面には湧水が認められ、井戸の機能がなくともない。その井戸を廃棄するときの祭として一連の土師器を埋納したものと推定する。

E地区S D005溝については、土師器壺が整然と並べられた状態で50個体以上検出した。このような遺物を溝中全域から検出すれば、他所からの流れ込み又は溝中への投棄が考えられるが、前述のとおり検出状況は祭祀以外には考え難い。しかし、何の祭祀であるかは、このような出土例が佐賀市域では初めてであり、今後の調査例の増加を俟って再検討したい。

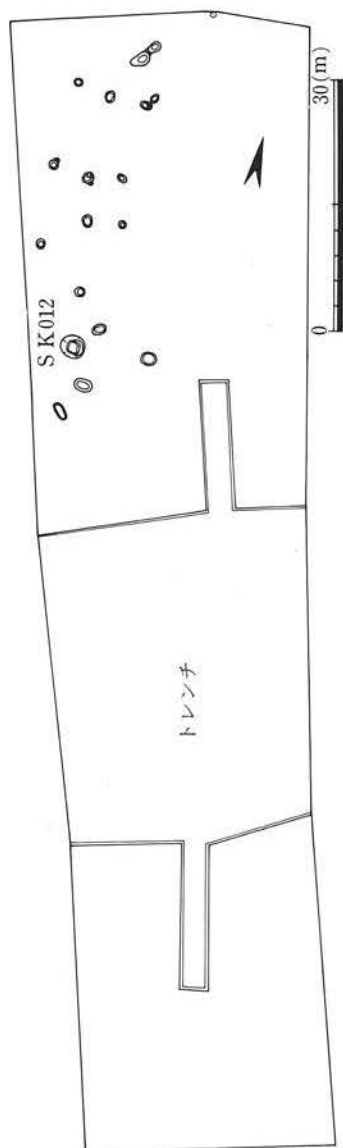


Fig. 8. 上和泉遺跡D地区遺構配置図 (1/300)

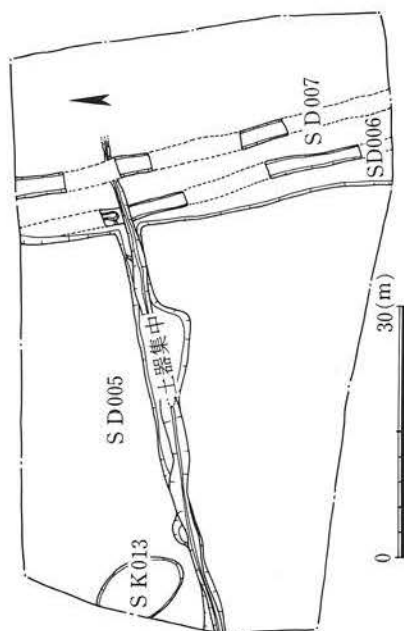


Fig. 9. 同E地区遺構配置図 (1/300)

上和泉遺跡（D・E地区）出土土器一覧表

番号	時代	種類	器種	法量 (口径)×(器高)×(底径)cm	残存状 況(%)	用途	出土遺構	出土年月日	実測番号
1	平安	土師器	坏	(13.25)×(2.9)×(7.25)	80	祭祀	SK012 一括	87. 09. 04	KIZ-D 149
2	〃	〃	〃	(12.8)×(2.9)×(7.60)	85	〃	〃	〃	108
3	〃	〃	〃	(13.0)×(3.25)×(7.60)	95	〃	〃	〃	121
④	〃	〃	〃	(13.2)×(3.2)×(7.20)	60	〃	〃	〃	101
5	〃	〃	〃	(13.7)×(3.3)×(7.60)	完形	〃	〃	〃	116
6	〃	〃	〃	(12.55)×(3.25)×(7.60)	90	〃	〃	〃	126
⑦	〃	〃	〃	(13.3)×(2.95)×(7.20)	60	〃	〃	〃	99
⑧	〃	〃	〃	(13.7)×(3.2)×(7.8)	80	〃	〃	〃	117
9	〃	〃	〃	(13.35)×(3.35)×(7.7)	80	〃	〃	〃	124
10	〃	〃	〃	(13.10)×(3.3)×(7.6) 推	70	〃	〃	〃	130
⑪	〃	〃	〃	(13.0)×(3.6)×(8.05)	90	〃	〃	〃	125
12	〃	須恵器	〃	(12.65)×(3.4)×(6.35) 推	55	〃	〃	09. 03	133
⑬	〃	土師器	〃	(15.25)×(3.1)×(9.5)	完形	〃	〃	09. 04	102
⑭	〃	〃	〃	(15.0)×(1.6)×(12.1)	50	〃	〃	〃	106
⑮	〃	〃	〃	(16.1)×(1.6)×(12.7) 推 推	70	〃	〃	〃	120
⑯	〃	〃	坏(蓋)	(19.2)×(3.6)	80	〃	〃	〃	105
⑰	〃	〃	〃(〃)	(20.3)×(1.9) 推	55	〃	〃	09. 03	152
18	〃	〃	〃(〃)	(19.5)×(4.1)	85	〃	〃	09. 04	166
⑰	〃	〃	椀	(15.1)×(5.5)×(7.65) 外 径	60	〃	〃	09. 03	132
⑳	〃	〃	〃	(14.5)×(5.5)×(8.2) 外 径	80	〃	〃	09. 04	131
㉑	〃	須恵器	壺	底部のみ	10	〃	〃	09. 03	134
㉒	〃	土師器	甕	(16.15)×(13.0) 推 残	30	—	SD005 溝	〃	KIZ-E 208
㉓	〃	〃	鉢	(22.4)×(13.25)×(10.95) 推 外径推	50	—	〃	〃	173
㉔	〃	〃	〃	(26.8)×(19.3)×(—) 残	70	—	〃	09. 02	213
㉕	〃	土師質土器	かまど?	(26.00)×(16.40) 推 残	30	—	〃	09. 04	184
26	〃	土師器	坏	(12.35)×(3.25)×(6.85)	完形	—	〃	09. 03	71
㉗	〃	〃	〃	(12.80)×(3.25)×(7.70)	85	〃	〃	〃	KIZ-E 95

番号	時代	種類	器種	法量 (口径)×(器高)×(底径)cm	残存状況(備)	用途	出土遺構	出土年月日	実測番号
㊸	平安	土師器	坏	(13.2)×(3.55)×(7.0)	60	祭祀	SD005	87. 09. 03	79
29	〃	〃	〃	(13.0)×(3.4)×(7.8)	完形	〃	〃	〃	73
30	〃	〃	〃	(12.25)×(3.3)×(6.75)	90	〃	〃	〃	69
31	〃	〃	〃	(14.2)×(3.8)×(7.8) 推	50	〃	〃	〃	81
32	〃	〃	〃	(12.7)×(3.0)×(7.6)	ほぼ 完形	〃	〃	〃	67
㊹	〃	〃	〃	(12.60)×(3.40)×(7.60)	75	〃	〃	〃	93
㊺	〃	〃	〃	(13.2)×(3.0)×(6.50)	95	〃	〃	〃	72
㊻	〃	〃	坏(蓋)	(26.55)×(—)×(3.5) 推	40	〃	〃	09. 02	211
㊼	〃	〃	〃(〃)	(17.25)×(2.95)×(—) 推	65	〃	〃	09. 03	85
37	〃	〃	〃(〃)	(15.2)×(2.9)×(—)	80	〃	〃	〃	84
㊽	〃	〃	坏	(15.0)×(1.55)×(11.8) 〃推	70	〃	〃	〃	86
㊾	〃	〃	〃	(14.8)×(1.7)×(11.2) 推推	80	〃	〃	〃	83
㊿	〃	〃	〃	(17.0)×(1.90)×(13.10)	80	〃	〃	〃	94
41	〃	〃		(5.50) 残存長	—	不明	KIZ—E 調査区		204
42	〃	〃	こしき		—	調理	〃		205
㊻	〃	土師器	椀	(14.4)×(4.6)×(7.8) 外径	90	祭祀	SD005 溝	87. 09. 03	75
44	〃	〃	〃	(14.25)×(5.98)×(8.22) 外径	70	〃	〃	〃	87
㊽	〃	須恵器	〃	(14.3)×(5.15)×(7.7) 外径	80	〃	〃	〃	82
46	〃	土師器	〃	(13.95)×(5.65)×(8.1) 推外径	85	〃	〃	〃	90
㊿	〃	〃	〃	(14.7)×(5.15)×(—)	70	〃	〃	〃	76
48	〃	〃	〃	(14.7)×(5.6)×(7.8) 推外径	65	〃	〃	〃	74
㊻	〃	〃	支脚	(12.70) 残	—	〃	〃	〃	97
	〃	〃	坏椀	コンテナ数 1箱			SK012 土壌		地区 E
	〃	土師器 須恵器	〃	2箱 (内、須恵器2点)			SD005 溝		D
		土師器	〃	3箱			表土下層		D
				計6箱					

○印は図面、写真とも掲載。無印は図面のみ掲載。

コンテナ法量（内法）は縦54cm×横34cm×高さ20cmのものを基準とする。

版 図



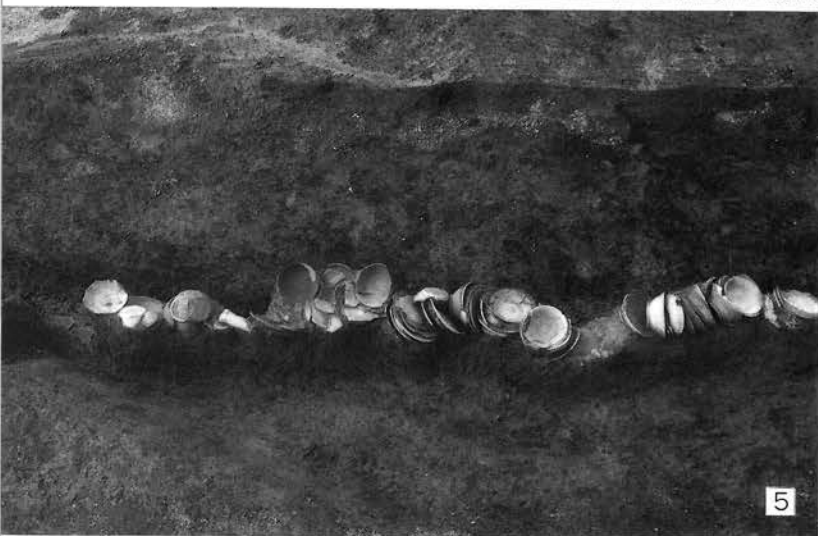
上和泉遺跡
1. D地区E地区全景



同遺跡
2. D地区全景

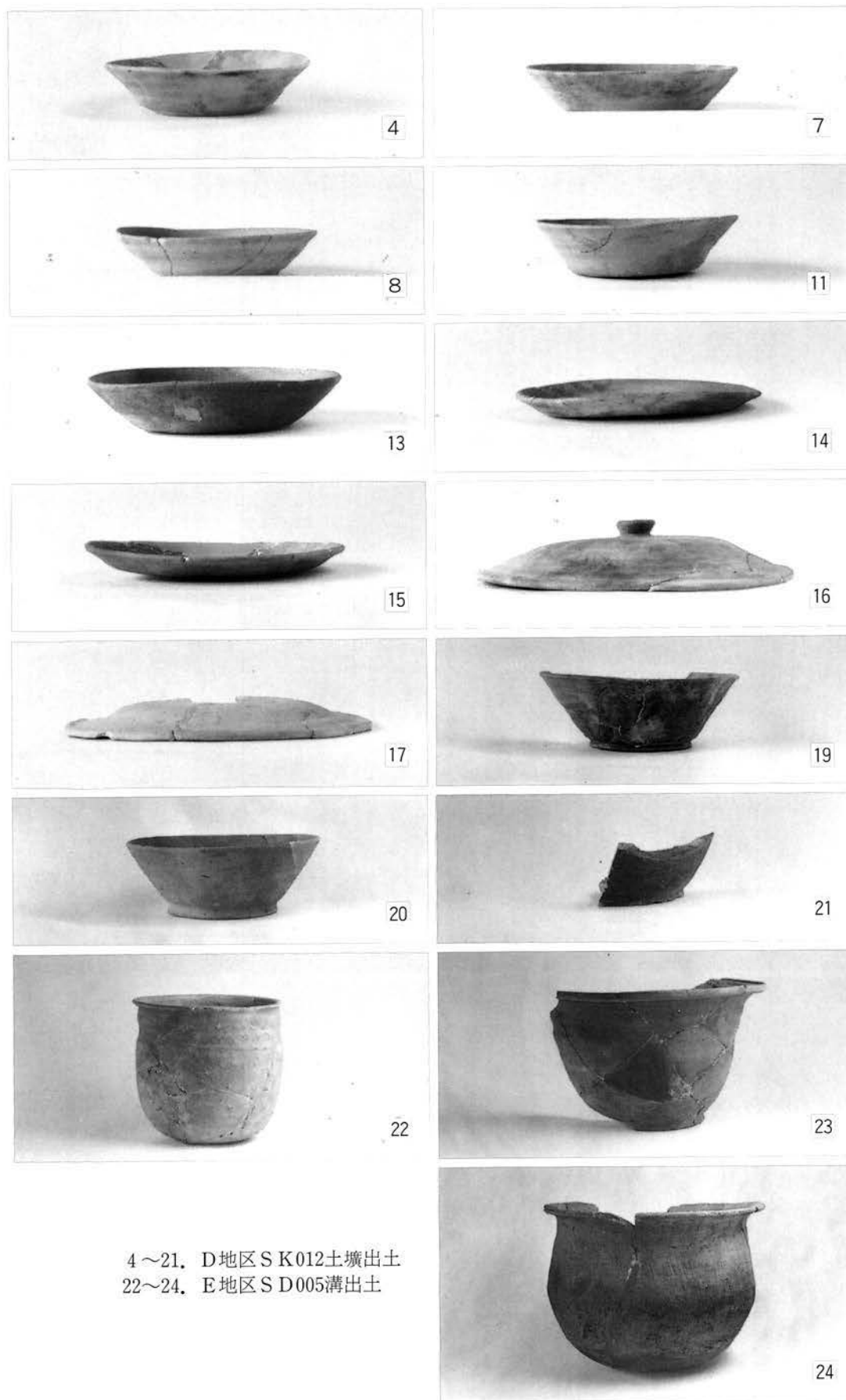


同遺跡
3. E地区全景

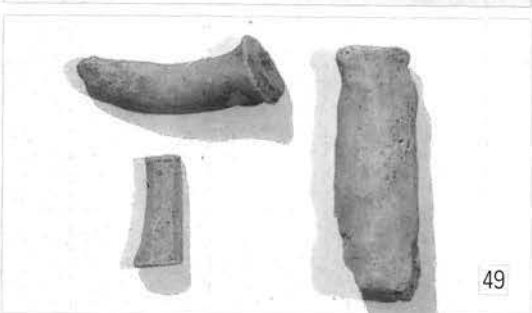
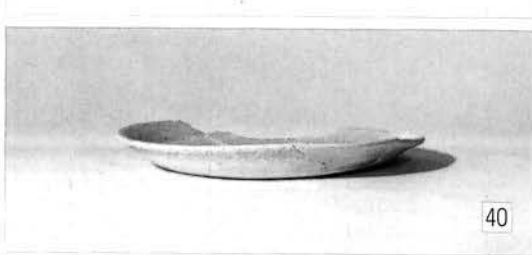
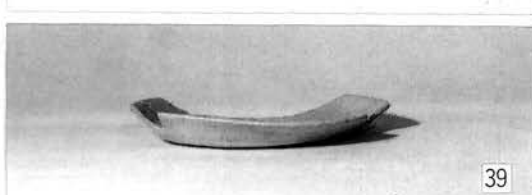
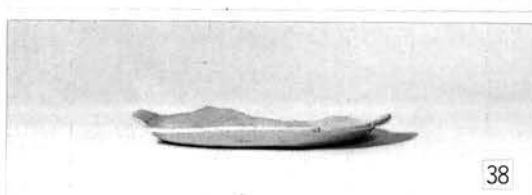
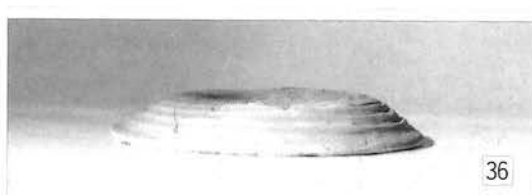
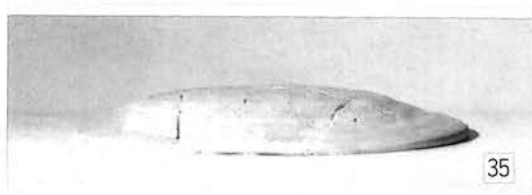
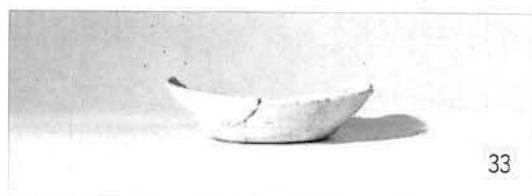
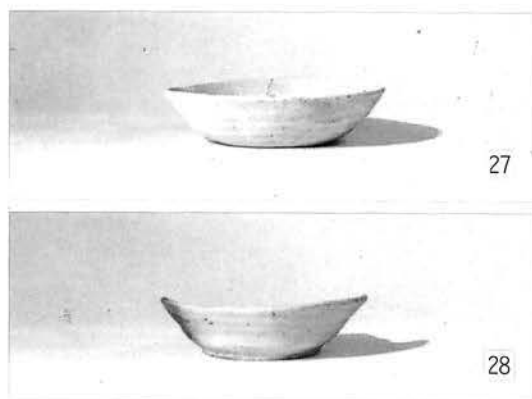


- 4. S K012土坑
- 5. S D005溝
- 6. S K013土坑





4～21. D地区SK012土坑出土
22～24. E地区SD005沟出土



25~49 D地区S D005溝出土

佐賀市文化財調査報告書第21集
上和泉遺跡(D・E地区)
昭和63年3月31日

発行 佐賀市教育委員会
佐賀市栄町1番1号

印刷 日之出印刷株式会社
佐賀市高木瀬町大字長瀬1136-55